

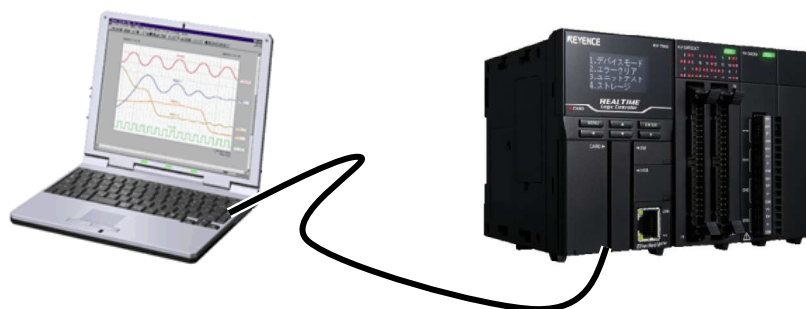
## 2.29. シミュレータ機能

今までは、動作確認をおこなうためにプログラムをKV-7500本体に転送後、スイッチ等を使用して動作確認をしてきました。しかし実際は、PLC本体が装置に組み込まれていることが多く、プログラムテスト（デバッグ）をおこないたくても装置が組み上がるまでできない場合があります。

このような問題を解消するために、ラダープログラム作成ソフト《KV STUDIO》には、PLCにラダープログラムを転送することなくデバッグができる「シミュレータ機能」を用意しています。

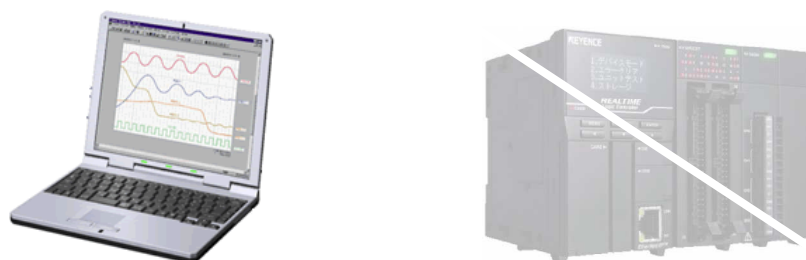
ここでは、具体的なシミュレータの使用方法を説明します。

### ■ 従来



PLCにラダー転送して  
プログラムの動作を確認

### ■ KV STUDIO シミュレータ機能

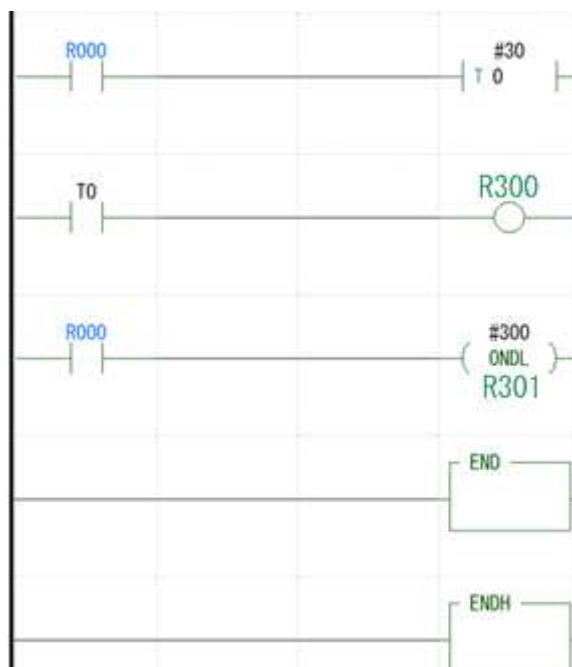


パソコンのみでプログラムの  
動作確認が可能

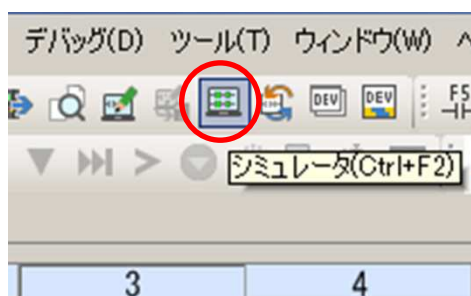
- ① まず、下記のプログラムを作成してください。

これはオンディレイタイマ命令で通常で作成したものと、便利命令で作成したものを並べて記述したものです。

入力R000がONすることにより、通常命令でも便利命令でも同時に出力R300とR301がONする様子が確認できます。



- ② [シミュレータ] アイコンをクリックして、シミュレータを実行します。

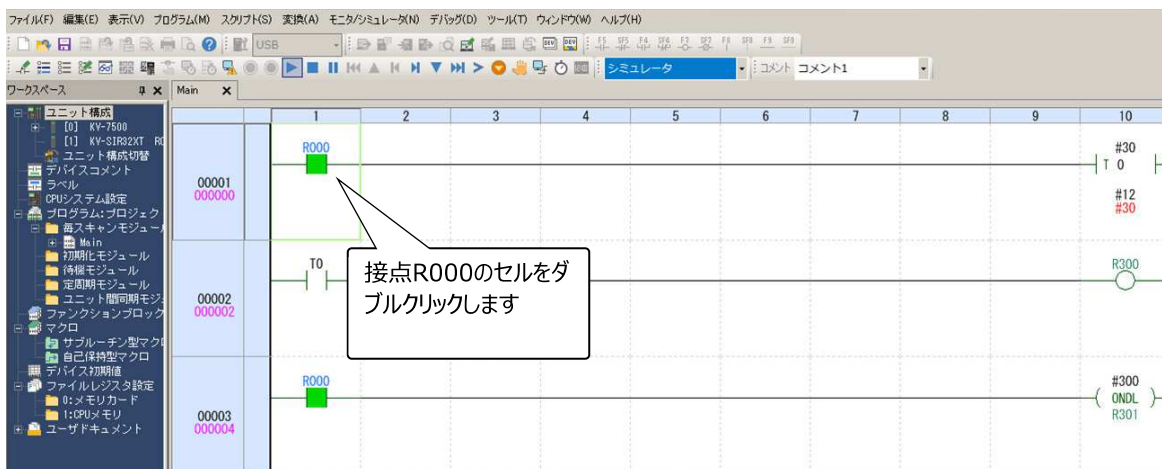


- ③ シミュレータ画面に切り換わりますので、[連続スキャン実行] アイコンをクリックします。

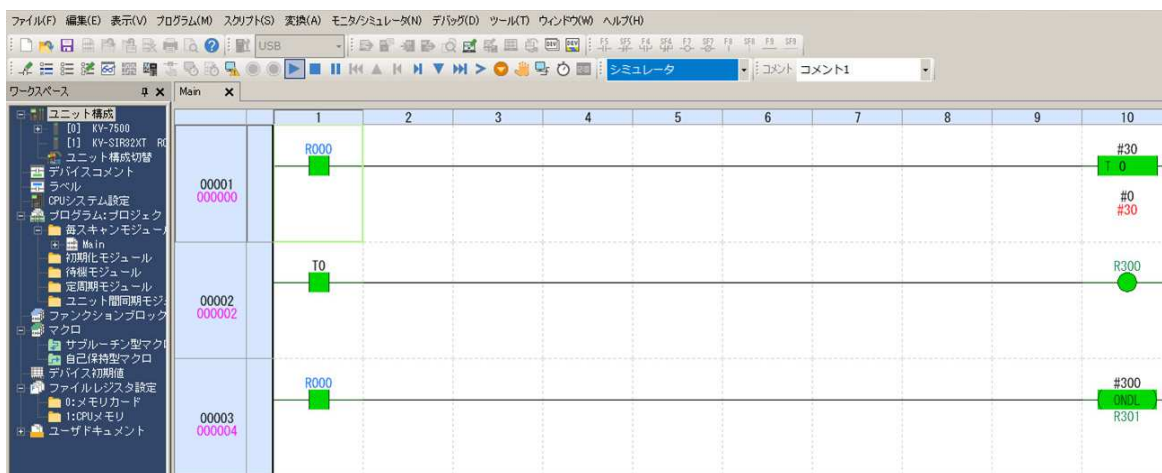
これで、パソコン上でラダープログラムが運転します。



- ④ シミュレータ画面上では、ラダープログラム上の接点をマウスでダブルクリックすることで、入力のON/OFFが切り換えられます。  
 入力のR000をダブルクリックしてください。入力がONし、タイマが動き始めます。



- ⑤ 3秒経過すると、出力R300とR301が両方ともONします。



- ⑥ シミュレータ画面上で、再度ラダープログラム上の接点をマウスでダブルクリックしてください。  
 入力のR000がOFFし、タイマがリセットされます。

今まで学習したプログラム（自己保持回路、タイマやカウンタ）を実際にシミュレータで実践してください。  
 シミュレータ機能は、簡単なタイマ・カウンタはもちろんのこと、今後使用する演算のプログラムなどで非常に役立ちます。ぜひ活用してください。